

企業ニュース 明治ホールディングス

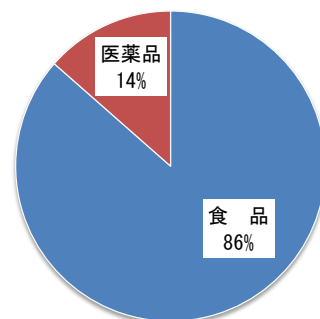
(東証1部：2269) <https://www.meiji.com>

作成者：兵藤三郎

医薬品事業を持つ大手食品メーカー

◇18.3期売上高構成比

2009年、明治製菓（1916年創業）と明治乳業（1917年創業）の経営統合により共同持ち株会社として設立。両社は旧・明治製糖を起源とする企業であった。経営の効率化、成長機会の追求などを目指し統合。2011年、グループ内事業の再編を行い、食品事業会社「明治」と医薬品事業会社「Meiji Seika ファルマ」を発足させた。2018年7月、一般財団法人化学及血清療法研究所（化血研）の主要事業を継承した「KMバイオロジクス」を連結子会社化した。食品事業では乳幼児の粉ミルク、子供向け菓子、スポーツ時などの栄養補助食品、老人向け流動食・栄養補助食品など、医薬品事業では医療用医薬品のほかインフルエンザワクチンなどを取り扱っている。国内シェアではヨーグルト、スポーツプロテイン、牛乳、チョコレートなどがNo.1となっている。



(出所) 明治ホールディングス資料より
CAM作成

医薬品事業が伸長、20.3期は値上げ効果にも期待

19.3期・第3四半期累計（4-12月）の連結業績は売上高が9,507億円、前年同期比1%増、営業利益が796億円、同10%増。主力の食品は、プロバイオティクス（「R-1」など機能性ヨーグルト類）やチョコレートの減収影響を好調なチーズ、栄養食品、スポーツ栄養などで補えず減収となったが、新連結（KMバイオロジクス）効果も寄与し好調に推移した医薬品の増収で補った。営業利益は食品事業での費用コントロールや医薬品の原価低減などで増益となった。

19.3期連結業績の会社計画は、売上高が1兆2,655億円、前期比2%増、営業利益が1,010億円、同7%増。従来計画は据え置かれたが、営業利益では18.3期を上回る進捗状況にある。プロバイオティクスの減収基調は継続しているが、インフルエンザの流行などもあり「R-1」は回復傾向にある模様。医薬品の好調、経費抑制などで計画達成は可能であろう。20.3期は市販用アイスクリーム（3月1日より）、市乳部門商品（4月1日より）などの価格改定効果も期待できよう。KMバイオロジクスも通年寄与し、連続増収増益を予想する。

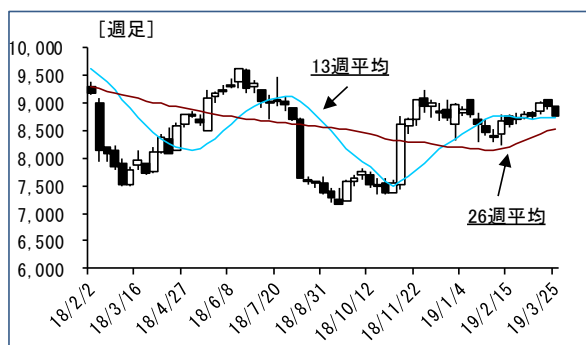
[株価動向・投資判断]

価格改定により、連続増収増益が期待できる銘柄。プロバイオティクス、チョコレートなどの需要回復が次のカタリストとなる。

<2269 明治HD 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,242,480 (2)	88,395 (14)	88,839 (9)	60,786 (▲ 3)	413.1	記110.00
18.3	1,240,860 (▲ 0)	94,673 (7)	95,877 (8)	61,278 (1)	422.2	130.00
19.3 予	1,265,500 (2)	101,000 (7)	101,000 (5)	71,000 (16)	489.5	130.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2019/3/25)	8,760 円
昨年来高値(高値日)	9,840 円(18/1/9)
同 安値(安値日)	7,170 円(18/9/14)
予想 P E R (19.3 予)	17.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	3,644.2 円
P B R	2.40 倍
予想配当利回り	1.48 %
(1株当たり配当金年130.00円)	
R O E (18.3)	13.1 %
発行済み株式数	15,268 万株